

第4回 ふくやま不登校セミナー

わが国の児童生徒数は、少子化という社会問題によって年々減少を続けています。平成18年度の児童生徒数（10,796,723人）と平成28年度の児童生徒数（9,918,796人）を比較してみても、ここ10年間で877,927人という大幅な減少となっています。しかし、両年度における不登校児童生徒数はそれぞれ126,894人と133,683人となっており、児童生徒全体数の減少に反して増加しているのが現状です。

また、高等学校における不登校を理由とする長期欠席者数は平成28年度では48,565人で全生徒数の1.5%となります。（平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より）

不登校という問題が注目され始めてからかなりの年月が経ち、「学校に行かれない」あるいは「教室に入れない」といった子どもたちの動きは、社会的にも認知が広がり受容的な方向にもあります。また、不登校問題に関する様々な活動も増え、支援のあり方もいろいろと検討されてきました。しかし、不登校生徒の減少には至っていない現実があります。

私たちは、20年以上にわたり不登校生徒たちと関わってきた経験をもとに、地域の不登校問題の解決に対して少しでもお力になればという思いから、様々な情報を発信するとともに、子どもたちと関わる方々と共にこの問題に対して取り組んでまいりたいと考え、本セミナーを開催いたします。

第4回テーマ

『発達障がいと不登校』 ～一緒に考えることの大切さ～

講師 **永井智樹 先生**

講師プロフィール

相談支援専門員（言語聴覚士・社会福祉士）1966年秋田県生まれ

倉敷中央病院形成外科音声言語治療室で6年勤務した後、こぶしの村福祉会草笛学園に就職。現在は福山市社会福祉協議会に Outreach 基幹相談支援センタークローバーで、主に発達障がい児・者の相談、支援に携わっている。

子どもたちは学校という集団生活の場において、勉強や行事あるいはクラブ活動や休憩時間などを通じて、さまざまな体験を重ねて成長していきます。こうした人間関係が問われる集団生活の場において、学年が上がるにつれて集団への適応が難しくなったり、自身の情緒的・身体的な成長に関わる要因も合わさって教室に入ることや学校への登校が困難になる子どもたちも増えてきます。今回は永井先生にお話しを伺いながら、発達障がいという視点から子どもたちの不登校について考えていきたいと思っております。

日時

2019年 **8月2日**（金） 19時～20時30分

場所

まなびの館ローズコム 4階 大会議室（福山市霞町1-10-1）

対象：どなたでもご参加いただけます

主催：東林館高等学校

お問合せ：福山市光南町1-1-35 Tel.084-923-4543（予約不要）

**参加は
無料です**